

賀来氏の起源と江戸初期までのまとめ

- ① 豊後の守に任せられた藤原頼輔（従三位、刑部卿）は、永歴元年(1160)子の頼経を目代として豊後に派遣した。
- ② 現在、賀来の地名のある場所の付近は、長寛(1163-)以前は阿南郷黒田里であった。
- ③ 赴任後まもなく頼経は、柚原八幡宮に参詣し、「よきこと来たるの社」（賀来社）という、名称を奉納した。
- ④ 以前から、平重盛の荘園であって、柚原八幡宮に年貢を納めていた地域を賀来荘と名付けた。
- ⑤ 長寛二年頃から豊後の国衙(役所)が発する文書に「賀来」なる地名があらわれる。

以上が「賀来」の起源

その2

- ⑥ 長寛二年頃、緒方惟興（緒方惟義の弟）が賀来荘の下司になり賀来を名乗る。（賀来秀三氏の説）
- ⑦ 治承三年(1179)、惟興が惟義の命により豊前中村城に転出（豊前賀来の祖）。（賀来秀三氏の説）
- ⑧ 治承三年(1179)、佐伯惟家が賀来荘の下司になり、治承四年に賀来を名乗る（豊後賀来の祖）。
- ⑨ 養和元年(1181)、緒方惟義が藤原頼輔の命により、平家を討つべく、兵を挙げる。
- ⑩ 寿永元年(1182)、源頼朝の平氏追討を受け、平氏の西下を防ぐため大畠城、宇留津城などを、緒方惟義が築城、同年、賀来惟興が大畠城主、賀来惟貞が丸城主、賀来惟成が塩田城主となる。ここの賀来はすべて、佐伯惟家の子の賀来惟康の子。（豊後国誌）
- ⑪ 寿永二年、平氏が太宰府に籠もるも、緒方惟義がこれを討ち、瀬戸内海に追い返す。

以上が豊前の賀来氏（後に加来と改名した一族が多い）と豊後の賀来氏の系譜の違いの理由
その3

- ① 元歴元年(1184)、緒方惟義、佐伯惟康ら一ノ谷の合戦に加わる。（この佐伯惟康は、賀来惟康と思われる）
- ② 同年、緒方惟義、平家方の宇佐八幡宮を焼き討ちする。
- ③ 文治元年(1185)、平家壇ノ浦で滅亡。
- ④ 同年、緒方惟義、宇佐八幡宮焼き討ちの咎で朝廷から上野国沼田に配流されるが、まもなく赦免となり、豊後に帰国するも任官できず。
- ⑤ 同年、源義経が、頼朝の追討を受け、大物浦から九州へ渡海しようとするが大風のためできず。
- ⑥ 同年、頼朝が全国に守護地頭を置く、
- ⑦ 同年、宇都宮信房、豊前の仲津郡城井郷、築上郡伝法寺荘の地頭に任命される。
- ⑧ 文治三年、賀来惟康の子の惟頼が賀来荘を受け継ぐ。

⑨ 建久三年(1192) 頼朝、鎌倉に幕府を開く

その4

- ① 建久五年 宇都宮信房豊前に下る。
- ② 建久七年 仲原親能豊後の守護となる。
- ③ 建永元年(1206) 大友能直(大友氏初代) 豊後守護を譲り受ける。
- ④ 承応二年(1216) 賀来惟綱(惟頼の子) 改易される。
- ⑤ 承久三年(1221) 承久の変が起こり、大友親秀(大友氏二代)幕軍に従い京に攻め上る。
- ⑥ 貞応三年(1224) 賀来惟綱、賀来荘の地頭に任命される(承久の変での勳功と思われる)。
- ⑦ 嘉禄二年(1226) 惟綱、幕府より地頭としての乱行を戒められる。
- ⑧ 寛喜二年(1230) 太宰府から賀来社大神宝用途として、阿南郷が不輸の神領とされる。
- ⑨ 宝治二年(1248) 惟綱に幕府から新補地頭に準じ給田加徵があてられる。
- ⑩ 弘長二年(1262) 柚原宮に対する地頭の乱行に付き裁定が下される。

その5

- ① 文永八年(1271) 大友頼泰(三代) 豊後に下向、この時までに豊後大神氏の大部分は、大友氏に従属していた。
- ② 弘安四年(1281) 第二次蒙古襲来、豊後賀来氏も大友氏に従って鬪う。
- ③ 弘安六年 賀来又次郎入道念阿 幕府より肥後国永吉西村地頭を拝領
- ④ 弘安七年 惟綱(順阿) の子、惟永(願蓮) が、柚原宮大宮司平經妙から行状を訴えられる。
- ⑤ 弘安八年 大友頼泰 豊後図田帳を幕府に注進。これに惟永の記載がある。
- ⑥ 正応二年(1289) 平經妙の書状に惟家から惟永までの経緯が記載されている。
- ⑦ 正安二年(1300) 柚原社権大宮司の書面に地頭賀来惟政とある。
- ⑧ 嘉元三年(1305) 賀来荘地頭 賀来越中守とある。
- ⑨ 同年 平丸名地頭 賀来長門守とある。
- ⑩ 正慶元年(1332) 順阿の子が、惟永(五郎法師願蓮) その子が二郎惟綱、舍弟が六郎惟家の記述がある。
- ⑪ 元弘三年(1333) 大友貞宗(六代) 足利高氏に従う。鎌倉幕府滅亡。

その6

- ① 建武元年(1334) 建武の中興
- ② 建武二年 大友貞載(大友氏惣領の名代) 朝廷軍に味方するも、足利高氏に内応。
- ③ 建武三年 高氏、京都にて大敗、九州に逃れる。
- ④ 同年 高氏、多々良が浜にて大勝、大友軍らを率いて東上、大友貞載これに従い京都にて討ち死に。
- ⑤ 同年 豊前の賀来三郎、宇治川の合戦により宇都宮大和守から恩賞を受ける。
- ⑥ 同年 高氏の留守中の官軍との玖珠、高国府の合戦にて、賀来掃部助入道が大神重能

から軍中状を受ける。

- ⑦ 同年賀来辨阿闍梨及び同舎弟、玖珠の戦いにより、戸次朝重(大友重臣)から軍中状を受ける。
- ⑧ 同年 懐良親王が、後醍醐帝から征西大將軍に任命される
- ⑨ 歴応元年(1338) 足利尊氏 京都に幕府を開府する。
- ⑩ 同年 大友氏泰(七代)、尊氏に従い、大和、和泉に出陣。
- ⑪ 歴応二年 氏泰、豊後に帰国、少弌、菊池軍(南軍)と鬭う。
- ⑫ 歴応三年 賀来弥五郎入道生阿、小田次郎から地頭職請け文を受ける。
- ⑬ 歴応四年 生阿、一色範氏(北軍)から軍功状を受ける。

その7

- ① 康永元年(1342) 懐良親王、薩摩に上陸
- ② 同年 賀来順阿、子の薬師女に賀来荘の支配を命じる。
- ③ 承和二年(1346) 賀来治部丞、尊氏下向の際の盟約(角違一揆盟約)を為す。
- ④ 正平三年(1348) 懐良親王、南軍を指揮し、一色軍に当たる。
- ⑤ 正平六年 大友氏時(八代) 尊氏と共に南軍に下る。
- ⑥ 文和元年(1352) 氏時、尊氏と共に南軍に叛く。
- ⑦ 文和二年 少弌氏(南軍) 一色氏(北軍)を太宰府浦城で破る。
- ⑧ 同年 賀来惟光、一色党として筑前針摺原で討死。
- ⑨ 正平十三年(1358) 懐良親王、豊前、豊後に入り、宇佐八幡宮に白鞘入剣を奉納。
- ⑩ 同年 足利尊氏死亡。
- ⑪ 同年 大友氏時、高崎城に籠もり南軍を撃退。
- ⑫ 応安四年(1371) 大内義弘、幕府の命により、九州探題を助ける。
- ⑬ 応安七年 大内義弘、豊前及び長門の守護に任命される。

その8

- ① 康歎二年(1375) 地頭賀来掃部助 前備前守から給人注文を受ける。
- ② 至徳元年(1384) 地頭賀来掃部助 地頭として柚原宮祭礼に勤事。
- ③ 明徳三年(1392) 南北朝合一成る。
- ④ 応永五年(1398) 加来三郎(宇留津)、大友氏鑑が大友親世(十代)に乱を起こした際に氏鑑につく。
- ⑤ 応永十九年 賀来五郎四郎、大友氏鑑から小津留代官職を停止される。
- ⑥ 応永二十一年 賀来掃部入道 柚原八幡宮の文書を受け取る。
- ⑦ 応永二十三年 大友親著、親世から大友十一代を継ぐ。
- ⑧ 応永二十九年 賀来小次郎 知行給田を受ける。
- ⑨ 応永三十年 大友持直、親著から大友十二代を継ぎ、豊後、筑後守護となる。
- ⑩ 応永三十二年 大友孝親著(親著の長子)、持直に殺される(三角畠の乱)

その9

- ① 永享四年(1432) 幕府は 大友親綱を大友十三代とし、豊後守護職と認めるも、大友持直が反乱、家臣も両派に別れる。
- ② 同年 豊前にて、大友、大内の戦いが始まる。
- ③ 永享七年 大友持直、海部郡姫岳城に拠る。
- ④ 永享八年 賀来六郎五郎及び賀来次郎、大友親綱のもと、姫岳軍に加わる。
- ⑤ 同年 大内持世、姫岳城を落とす。
- ⑥ 永享十一年 大友親綱、持直の弟親隆に十四代の家督を譲る。
- ⑦ 文安元年(1444) 大友親隆、親綱の弟親繁に十五代の家督を譲る。豊後守護職は安堵。親繁の妻は親隆の長女。
- ⑧ 応仁元年(1467) 応仁の乱始まる。
- ⑨ 文明元年(1469) 大友親繁、東軍として、大内政弘と鬭う。
- ⑩ 同年 賀来主税 大友政親のもとで、大内政弘と鬭う。

その 10

- ① 文明八年(1476) 大友政親十六代の家督を継ぎぐ。
- ② 文明九年 政親、豊後守護職を安堵。
- ③ 文明十六年 政親、子の義右に十七代を継がせる。
- ④ 延徳元年(1489) 賀来治綱次男神九郎、大友勝依（政親の弟）を介錯する。
- ⑤ 延徳二年 賀来采女佐（豊前）立て札について指示を受ける（大内からか）
- ⑥ 明応五年(1496) 大友義右死亡、（政親が毒殺か）
- ⑦ 同年 政親、義右の母方の大内氏にとらえられ、舟木地蔵院で生害さる。
- ⑧ 同年 賀来弾正忠、政親に従い殉死
- ⑨ 明応六年 大友親治、大友氏十八代を継ぐ。豊前守護職を入手。
- ⑩ 同年 賀来五郎左衛門尉治綱、袖原宮大宮司になる。

その 11

- ① 明応十年(1501) 賀来藤兵衛、佐田次郎のもと大内軍に従い本庄城にて矢疵。
- ② 文亀元年(1501) 大友義長十九代を継ぎ、豊後、豊前、筑後守護職、筑前、肥前所領安堵
- ③ 同年 賀来惟秀、豊後から佐田に来たる。
- ④ 同年 賀来神兵衛、佐田にて大内方となり、妙見城を先登。
- ⑤ 永正二年(1505) 賀来神兵衛、佐田次郎から感状を受ける。
- ⑥ 永正四年 賀来治綱 大友親治書状に、袖原宮大宮司沙汰とある。
- ⑦ 永正五年 賀来治綱 大友義長から袖原社社頭祈念の礼を受ける。
- ⑧ 永正六年 賀来大蔵少輔惟秀、佐田荘境界論議に境界論議に大蔵代官として、賀来善右衛門尉、神左衛門尉と立ち会う。
- ⑨ 同年 大内義興、豊前守護職となる。
- ⑩ 永正八年 賀来備中守、大友親照謀反につき介錯する。

- ⑪ 永正九年 賀来大膳允、大友親治から知行預け状を貰う。
- ⑫ 同年 賀来左京亮、 大友義長から社当留守番申しつけられる。
- ⑬ 同年 賀来大蔵惟秀 古川三郎左衛門に古川荘四方指案を示す。

その 1 2

- ① 永正十五年(1518) 大友義長死亡、義鑑二十代を継ぐ。
- ② 永正十七年 賀来右衛門大輔 大友義鑑から父親戦死により筑後内で四丁を預かる。
- ③ 大永元年(1521) 賀来加賀守、賀来左京進、賀来将監 大宮司隆重覚書にあり。
- ④ 同年及び同四年 賀来大蔵少輔 古川村境界論議に境界論争に大、賀来善右衛門尉、神左衛門尉と立ち会う。
- ⑤ 大永四年 賀来八郎大神鑑綱(治綱子) 加冠
- ⑥ 同年 賀来藤兵衛 古川景助から古川村境界案を受ける。
- ⑦ 享禄二年(1529) 賀来左衛門大夫 田北親から書状を受ける。
- ⑧ 享禄三年 賀来右衛門大夫 氏姓の争いで死亡
- ⑨ 同年 賀来民部少輔 柚原宮文書に賀来地頭と記述される。
- ⑩ 享禄四年 大宮司、正大宮司の記述が柚原宮文書にある。

その 1 3

- ① 享禄四年(1524) 柚原宮宮師から、賀来左京亮に柚原社旧記返還の要請がある。
- ② 同年 柚原社東光房栄元から、伊賀守田口氏に、賀来地頭、賀来五郎左衛門、香童子、賀来新四郎を非難する文書が送られる。
- ③ 同年 田尻中務丞に大友義鑑から、東植田村田尻の氏姓の争い関係の土地が返還される。
- ④ 同年 賀来右衛門大夫に、義鑑から安岐郷、武藏郷(国東)が還付される。
- ⑤ 同年 賀来新九郎(治綱次男)に義鑑から、阿南荘内の一部が預けられる。
- ⑥ 天文元年(1532) 賀来新九郎が、義鑑に従い、宝珠山戦で被創。
- ⑦ 同年 賀来右衛門尉、民部丞、亮次郎、次郎三郎、藤七、又次郎が、義鑑から豊前国妙見岳攻めの感状を受ける。
- ⑧ 天文二年 賀来新九郎が義鑑から感状三枚を受ける。
- ⑨ 同年 賀来新左衛門尉が中村正資から、馳走礼状を受ける(豊前)。
- ⑩ 同年 賀来新左衛門尉が沼間網中連署の軍忠状を受ける。
- ⑪ 天文三年 賀来新九郎が義鑑から感状を受ける。

その 1 4

- ① 天文三年(1534) 賀来藤三、右京進が手負いにて佐田隆居討死手負注文に記載される。
- ② 同年 賀来大膳允、采女允、佐田因幡守から礼状を受ける。
- ③ 同年 大友義鑑、大内義隆と速見郡勢場ヶ原にて鬭う。
- ④ 同年 賀来新左衛門允 大友から忠節感謝状二通を貰う。
- ⑤ 同年 賀来次郎 佐田氏から父を悼む文を貰う

- ⑥ 同年 賀来次郎 大友義鑑から肥後木山城攻めの軍中状を貰う。
- ⑦ 同年 賀来新左衛門尉 杉興重から感状を貰う。
- ⑧ 同年 賀来五郎太郎 大友義鑑から跡地知行を小原弾正に預けられる。
- ⑨ 同年 賀来右京進、亮次郎、中務大丞(佐田か) から感状を貰う。
- ⑩ 同年 賀来藤三、佐田隆居討死手負注文に記載される。

以上は②を除き、佐田の賀来氏関連事項である。

その15

- ① 天文五年(1536) 賀来民部丞、大友義鑑及び重臣連判から筑後国内知行預け状を受ける。
- ② 同年 賀来社正大宮司紀伊守、大友義鑑から礼状を受ける。紀伊守は、賀来治綱弟惟重か
- ③ 同年 賀来右衛門大輔、大友義鑑から親父戦死後、筑後内を預けられる。賀来民部丞の子か。
- ④ 天文七年 賀来左京亮鑑重 柚原社造替覚書及び願文。
- ⑤ 同年 賀来左京亮鑑重、大友犬追物組手。
- ⑥ 天文八年 賀来社大宮司平鑑綱 賀来社の有識故実の伝授を受ける。賀来治綱の子。
- ⑦ 天文九年 賀来景縁神右衛門尉、永松若狭守から宇佐八幡に、宇佐米送りを依頼される。
- ⑧ 同年 賀来社大宮司鑑綱、大友義鑑から肥後国内預け状を受ける。
- ⑨ 同年 賀来中務丞 佐田朝景から宇佐八幡検査を命ぜられる。
- ⑩ 同年 賀来社惣地頭 大友義鑑から賀来社末社大破について出府命ぜられる。
- ⑪ 天文十年 賀来左京亮 大友義鑑から賀来社旧記の返還を求められる。
- ⑫ 同年 賀来紀伊守惟重 大友義鑑から唐人成敗の感状を受ける。
- ⑬ 天文十一年 賀来社正大宮司 大友義鑑から立花城属案について祝儀礼状を受ける。
- ⑭ 同年 賀来社大宮司 大友義鑑から山野雉法度を受ける。

その16

- ① 天文十九年(1550) 大友義鑑 二階崩れ騒動にて死亡
- ② 同年 大友義鎮 大友二十一代を継ぐ。
- ③ 同年 賀来八郎鑑綱 次男を八房丸称す。
- ④ 天文二十年 賀来八郎鑑綱 大友義鎮から肥後での知行預け状を受ける。
- ⑤ 同年 大友氏肥後国検地衆及び肥後文書に、賀来丹波守、賀来伊豆守、賀来治部少輔、賀来弾正忠の名有り。
- ⑥ 天文二十一年 賀来民部少輔 大友義鎮から肥後領地内渡状を受ける。
- ⑦ 同年 賀来紀伊守惟重 大友義鎮から宮師跡について相談を受ける。
- ⑧ 同年 賀来八房丸(鑑綱次男) 寒田右京介娘塩徳と婚姻、大友義鎮から柚原宮宮師跡を承認される。

- ⑨ 同年 賀来中務少輔 大友義鎮から肥後に差し遣わされる。
- ⑩ 同年 賀来新九郎(治綱次男) 大友義鎮から、鎮秀を授名される。
- ⑪ 同年 賀来八房 長重から柚原宮宮師交代に付き領内成敗を申し入れられる。

その17

- ① 天文二十四年(1555) 賀来周防守 大友義鎮から狩場奉行を命ぜられる。
- ② 弘治二年(1556) 眃杵鑑続、佐田彈正忠に対して、賀来紀伊守の成敗を申し入れる。
- ③ 同年 大友義鎮 賀来紀伊守跡地を、田北忠次郎に預ける。
- ④ 同年 大友義鎮 大内氏と争い宇佐、下毛両郡に侵攻。
- ⑤ 同年 加来孫兵衛惟康 塩田城にて大友氏に降伏。
- ⑥ 同年 大友義鎮 賀来太郎跡地を不明人に与える。
- ⑦ 同年 賀来次郎等 宇佐郡三十六人衆 大友義鎮のもとに着到。
- ⑧ 弘治三年 鑑績 賀来主計允を佐田彈正忠あて推薦。
- ⑨ 同年 大友義鎮 佐田彈正忠に感状を与える。
- ⑩ 同年 賀来九郎 大友義鎮から在陣見舞いを貰う。
- ⑪ 永禄元年(1558) 賀来周防守 大友義鎮から感状を貰う、
- ⑫ 永禄二年 大友義鎮 足利義輝から筑前、豊前守護職に補任される。

その18

- ① 永禄二年(1559) 賀来市助、中務丞、神三郎、備後守、善三郎(全員賀来姓)佐田隆居分捕注文に記載。
- ② 同年 賀来市助、賀来彦三郎、助六、大蔵丞 佐田隆居手負い注文に記載
- ③ 永禄三年 大宮司賀来氏(賀来地頭) 御老中から大友年頭行事記
- ④ 同年 賀来九郎 大友義鎮から在陣見舞いを貰う、
- ⑤ 永禄四年 大友義鎮 毛利氏を門司城に攻める、
- ⑥ 同年 毛利氏から佐田彈正忠あての文書に賀来和泉守叛義鑑とある。
- ⑦ 同年 賀来鎮綱(宮千代)大友義鑑から父掃部守鎮綱後賀来社大宮司職を宮千代に安堵される。
- ⑧ 同年 賀来松寿 佐田隆居から知行を宛て行われる。
- ⑨ 永禄五年 大友義鎮 眃杵丹生城を築城、宗麟と号す。
- ⑩ 永禄六年 加来刑部大輔惟定 豊後から豊前奈古岩丸に來たり在住する。

その19

- ① 永禄八年(1565) 賀来采女佐、弥右衛門尉 佐田隆居の手負い注文に記載。
- ② 永禄十二年 賀来宮内丞 大友宗麟から田原郡での軍功状を貰う。
- ③ 同年 賀来三郎右衛門尉 規矩郡の大友宗麟軍にて手負い。
- ④ 同年 賀来宮内、三郎右衛門、泉、田原親宏から軍功状。
- ⑤ 永禄十三年 賀来民部少輔について、宮師豪栄(八房)が宮師由来に記載。
- ⑥ 同年 賀来四郎 大友宗麟軍にて手負い。

- ⑦ 元亀二年 宮師豪栄 賀来社雜事注文に記載。
- ⑧ 同年 大宮司、宮師御坊あて、大友老臣連署にて、大神宝会について文書。
- ⑨ 同年 宮師豪栄 賀来社雜事注文を受ける。
- ⑩ 元亀四年 賀来孫五郎 鳥羽紹佐等から年貢米受取状を受ける。
- ⑪ 天正三年 宮師豪栄 賀来房洲入道あて賀来社着座次第。
- ⑫ 同年 賀来左衛門尉、兵部丞、和泉守、九郎、与一、藤次郎、又次郎に山上衆の飽田郡内知行目録に記載。

その20

- ① 天正六年(1578) 大友義統 柚原宮に太刀を奉納して、島津戦の戦勝を祈願。
- ② 同年 大友義統 大友氏二十二代を継ぐ。
- ③ 同年 大友軍、耳川にて島津勢に大敗。
- ④ 同年 賀来太郎 佐田鎮綱の分捕り注文に記載。
- ⑤ 同年 賀来大蔵丞惟秀 田原親賢から書状。
- ⑥ 天正七年 賀来孫兵衛惟康(宇留津城主) 大友氏から離反。
- ⑦ 同年 宇都宮鎮房 大友氏から離反。
- ⑧ 天正八年 賀来左衛門大夫、宮内少輔 大友宗麟から田北紹鉄の結束攬乱の書状を受ける。
- ⑨ 同年 大友宗麟 佐田弾正忠に宇佐郡中四十町を与える。
- ⑩ 同年 大友宗麟 賀来右衛門大夫に田北紹鉄の自害を命じる。
- ⑪ 同年 大友義統 賀来社大宮司に、賀来社造営を指示。
- ⑫ 同年 賀来次郎左衛門尉、采女佐 佐田弾正忠の宇佐郡植田表着到に記載
- ⑬ 同年 賀来与一、半次郎、清左衛門尉、主税、甚左衛門尉 下毛郡多布原村で城攻め

その21

- ① 天正十年(1582) 賀来兵右衛門鎮光、同子松寿丸(三七統久) 大友義鎮から鎮光所領を松寿丸に相続させる。
- ② 同年 加来安芸守統直 大畠城で島津氏と戦い勝利し、大友義統から感状を貰う。
- ③ 同年 賀来土佐守(豊後)、賀来越中守(豊前)が大友氏城主録に記載。
- ④ 天正十一年 賀来中務少輔、佐田弾正忠配下で、大友義統の指示により、安心院神楽要害に兵糧を入れる。
- ⑤ 同年 大宮司 大友義統から賀来社祭礼御札を貰う。
- ⑥ 同年 大宮司 大友義統から社殿造営要心の指示を受ける
- ⑦ 同年 佐田弾正忠 神楽城落城
- ⑧ 天正十二年 大宮司 大友義統から賀来社祭礼御札を貰う。
- ⑨ 同年 賀来左近将監 大友義統から文書を貰う。
- ⑩ 天正十三年 賀来兵部少輔 大友義統から陣中見舞いを貰う。
- ⑪ 同年 太閤秀吉 九州諸大名に太閤に従属するよう支社を派遣。

⑫ 天正十四年 大友宗麟 大阪にのぼり、秀吉に島津征伐を願い出る。秀吉九州征伐を決断。

その22

- ① 天正十四年(1586) 島津義久 豊後に来寇府中城占領、大友義統竜王城に移る。
- ② 同年 賀来鎮綱(大宮司) 大友義統から高崎城整備の感状を貰う。
- ③ 同年 宇留津城主加来孫兵衛久盛 黒田軍により落城。
- ④ 同年 賀来鎮綱 島津軍を武略により悩ます。
- ⑤ 同年 賀来主膳 大友義統の下で島津軍と戦う。
- ⑥ 天正十五年 島津軍 秀吉軍のため、豊後から退却。
- ⑦ 同年 秀吉 豊前馬岳城に入城。
- ⑧ 同年 島津義久 秀吉に降伏。
- ⑨ 同年 黒田長政 京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐の六郡を封される。
- ⑩ 同年 賀来刑部丞 大友義統から賀来跡を許される。
- ⑪ 同年 賀来松寿丸 義統から鎮光跡を許される。

その23

- ① 天正十六年 宇都宮鎮房ら黒田氏に対し、一揆を起こす。
- ② 同年 大畑城主 加来統直 一揆に荷担拳兵。
- ③ 同年 大畑城 黒田氏によって落城、加来統直討ち死。
- ④ 同年 宇都宮鎮房 黒田氏に領地安堵と偽られ城井城を開城。
- ⑤ 同年 宇都宮鎮房 黒田氏から城井城を奪還。
- ⑥ 同年 黒田長政 城井城を攻めて大敗
- ⑦ 天正十七年 黒田長政和睦の上、宇都宮鎮房を中津城で謀殺。
- ⑧ 同年 加来左内元郡 鎮房とともに討たれる。加来刑部惟定の子。
- ⑨ 同年 加来藤兵衛尉惟元も宇都宮鎮房に従っていた。
- ⑩ 同年 賀来三七(松寿丸) 大友吉統から加冠状を貰う、旧名統久、大神神九郎と号す。
- ⑪ 同年 賀来兵部少輔 大友吉統から工事感状を受ける。

その24

- ① 天正十九年(1591) 賀来刑部大輔 参宮帳に記載あり。
- ② 文禄元年(1592) 秀吉 朝鮮出兵
- ③ 同年 賀来将監 大友氏家臣名簿に記載。
- ④ 同年 賀来中務少輔 大友義統高麗陣に供奉。戦死。
- ⑤ 文禄二年 賀来兵部少輔 朝鮮着到
- ⑥ 同年 大友吉統 小西軍を援軍せず。
- ⑦ 同年 大友吉統 豊後を召し上げられ、毛利にお預けとなる。
- ⑧ 文禄三年 大友軍は、黒田軍に組み込まれ、賀来左京入道、賀来次郎等山口に着到。
- ⑨ 慶長三年(1598)年 大宮司、賀来中務少輔、兵部少輔、将監、市右衛門尉等山口に着

到。

⑩ 同年 秀吉没。

⑪ 同年 このころ、大宮司肥後をへて、長州萩に移る。

その 25

① 慶長四年(1599) 大友吉統 江戸へ移される。

② 慶長五年 徳川家康 上杉征伐へ出陣。

③ 同年 賀来三七 会津表参陣を賀する。

④ 同年 石田三成挙兵 関ヶ原の戦い起こる。

⑤ 同年 大友吉統 西軍に与し、毛利の軍艦にて豊後に向かう。

⑥ 同年 大友吉統 黒田如水軍に敗れる。 石垣原の合戦

⑦ 同年 黒田長政 筑前に封ぜられる。

⑧ 元和三年(1617) 宮師豪栄(賀来八房) 賀来社願文案を記す。

⑨ 元和六年 賀来三七の子 賀来兵部、三七の事項及び賀来氏の由来を記す。

⑩ 同年 宮師豪政 賀来社由来、賀来地頭民部少輔、八房丸、豪栄の事項を記す。

⑪ 寛永二年(1625) 賀来治綱次男神九郎 賀来氏家伝、治綱、神九郎、民部少輔、式部大輔、賀来惟時等を記述。

⑫ 同十五年 佐田勘左衛門友房 山藏賀来氏の来歴を記す。

⑬ 同十七年 賀来佐左衛門尉 賀来氏来歴覚えを記す。

⑭ 正徳五年(1716) 大神尚山 豊後図田帳考策を表す。

以上

1 賀来氏関係年表

2016年1月

加来利一

西暦	元号	氏名等	氏名等1	関係者	場所	事柄	出典
300	崇神天皇	大田田根子 命	大田田根子	崇神天皇	大和三輪	三輪山の祭詞を命ぜられる	古事記、日本書紀
587	用命元年	三輪逆		物部守屋大連	小治田宮 宇佐鷲居社 小山田社	被害を受け死亡 応神八幡の成立、後、神宮皇后を加える	日本書紀 八幡神信仰の研究
600	推古8年	大神比義					
672	天武元年	天武天皇				壬申の乱	日本史年表
672	天武元年	三輪子首		天武天皇		壬申の乱の功績により賜内小紫位	三輪叢書
684	天武12年			豊國		豊前、豊後に分かれる	大分県の歴史年表
736	天平8年	三輪豊島壳				叙位從四位上	三輪叢書
746	天平18年	聖武天皇		国分		豊後國分寺建立	大分県の歴史
827	天長4年	金龜和尚		賀来郷	由原宮(賀来社)は宇佐八幡を賀来郷に勧請	大分県史料	
830	天長7年	八幡大菩薩		右大臣夏野	宇佐宮より大菩薩の初衣飛來	大分県史料09-75	
836	承和3年	大江宇灰国 司		由原宮	由原宮神殿造成	大分県史料09-75	
862	貞觀4年	三輪全雄			賜大神朝臣姓	三輪叢書	
862	貞觀4年	三輪良臣			賜大神朝臣姓	三輪叢書	
886	仁和2年	大神良臣		太宰府	太宰府	豊後介から帰任	豊日誌
886	仁和2年	三輪良臣			その子庶幾を豊後にとどめる		豊後日誌
892	寛平4年	大神良臣			豊後介に再任される	三輪叢書	
892	寛平4年	大神庶幾			大野郡領となる	三輪叢書	
912	延喜12年	大神諸任 (惟基)			大野郡擬少領となる	三輪叢書	
939	天慶2年	平将門		関東	平将門の乱	日本史年表	
939	天慶2年	藤原純友		瀬戸内海	純友の乱	日本史年表	
940	天慶3年	大神諸任 (惟基)		佐伯	純友の次將となる	本朝世紀	

940	天慶3年	大神諸任 (惟基)	佐伯	官軍に捕まるも大赦さる	本朝世紀
965	康保2年	仙照(由原) 宮師)	由原八幡宮	由原八幡宮最古の文書	大分県史料09-1
971	天祿2年4月	佐伯(目代)	宮師僧仙照	由原八幡宮	大分県史料09-09
998	長徳4年	由原宮	賀来莊	由原宮の領所とする	大分県史料09-75
1076	承保3年	妙見神社	妙見神社	創建(天正年間奈古に移る)	城井
1156	保元元年			保元の乱	日本史年表
1159	平治元年			平治の乱	日本史年表
1159/05	平治元年	紀氏	僧院清解	地頭紀氏に対して桑と畠の免除を申請	袖原八幡宮文書19
1159/05	平治元年	紀氏	僧院清解	精治料寄進	袖原八幡宮文書19
1160/01	承暦元年	藤原頼輔	子藤原頼経	豊後守となる	玉葉
1164/09	長寛2年	僧院清讓	官	新立仁王講殿(地名賀来の初見)	袖原八幡宮文書22
1166	永万2年	藤原頼輔	子藤原頼経猶		
1171	嘉応3年	由原八幡宮	豊後にことどまる	豊後守を辞す	玉葉
1172	承安2年	由原八幡宮	豊後にことどまる	豊後一宮と称す	大分県の歴史年表
1172	承安2年	緒方惟興	頼経仕事始めの賀をなす	由原八幡宮	
1177/08	治承元年	左中弁藤原朝臣	緒方惟義	豊後守となる?	袖原八幡宮文書26
1177/08	治承元年	大春日立並下	賀来社神官住人等	庄司となる?	賀来考
1179	治承3年	緒方惟興	賀来御荘神官百姓所	由原八幡宮	
1179	治承3年	佐伯惟家	緒方惟義(兄)	文賀来社初見	袖原八幡宮文書27
				賀来莊	袖原八幡宮文書28
				豊前中村に移任、後賀来と名乗る?	賀来秀三
				賀来莊下司職に任命される	袖原八幡宮文書47

1180	治承4年	佐伯惟家				賀来莊	名を賀來と改める	柏原八幡宮文書47
1180/08	治承4年	源頼朝				伊豆	挙兵	
1181	寿永元年	緒方惟義	藤原頼輔				叛平家で挙兵	大分県の歴史
1183/8	寿永2年	平氏				大宰府	大宰府に廻る	大分県の歴史
1183	寿永2年	安徳天皇	宇佐公通	宇佐公通		宇佐八幡	行幸	大分県の歴史
1183/10	寿永2年	平氏	緒方惟義	緒方惟義	大宰府	大宰府より追われる		大分県の歴史
1184/02	元暦元年	佐伯三郎維康	平氏	緒方惟義	一ノ谷	合戦に加わる		源平盛衰記卷36
1184	元暦元年	緒方惟義			豊前	宇留津、大畠城等を築城	豊後国誌、築城郡志	
1184	元暦元年	賀来惟興	緒方惟義	賀来惟康の子	大畠城	大畠城主となる	豊後国誌	
1184	元暦元年	賀来惟貞	緒方惟義	賀来惟康の子	大丸城	大丸城主となる	豊後国誌	
1184	元暦元年	賀来惟成	緒方惟義	賀来惟康の子	塙田城	塙田城主となる	豊後国誌	
1184/7	元暦元年	緒方惟榮	宇佐八幡	宇佐八幡	豊後	宇佐八幡宮を焼き討ち	豊後国誌	
1185/2	文治元年	緒方惟榮	源範頼	源範頼	豊後上陸	豊後上陸	大分県の歴史	
1185/3	文治元年	平氏			壇の浦	壇の浦	大分県の歴史	
1185	文治元年	緒方惟榮			上野国沼田	配流となる	大分県の歴史	
1185/10	文治元年	緒方惟榮			上野国沼田	配流を許さる	大分県の歴史	
1185	文治元年	源頼朝			全国	各地に守護、地頭を置く	日本史年表	
1185	文治元年	宇都宮信房			豊前	豊前の地頭に任命	大分県の歴史	
1185/11	文治元年	源義経	緒方惟榮	緒方惟榮	大物浦	大風のため遭難	大分県の歴史	
1187	文治3年	賀来惟頼	大官司平経 妙申状案	惟康の子	賀来莊	莊を受け継ぐ	柏原八幡宮文書47	
1188/11	文治4年	八幡宮袖原 權介藤原朝 臣他				年貢米を賀来莊と平丸か ら当てる	柏原八幡宮文書29	
1192	建久3年	源頼朝			鎌倉	幕府を開く	城井	
1195	建久5年	宇都宮信房			地頭として下向、仲津郡 城井郷（京都郡、澤川町）			
1196	建久7年	仲原親能			豊前	築上郡伝法寺莊	兩豊記	
1197	建久8年	大友能直 (初代)			豊後	豊後の守護となる	大分県の歴史	
1206	建永元年	賀来惟綱			豊前国	豊前國田帳を上申	大分県の歴史年表	
1216	正応2年	賀来惟綱			豊後	豊後守護を譲り受ける	大分県の歴史	
					賀来莊	惟綱改易	賀来莊史料28	

1219	承久元年	源実朝		鎌倉	暗殺される	城井
1221	承久3年	大友親秀 (2代)	幕府、鳥羽 上皇	幕府、鳥羽上 皇	承久の変起こり大友親秀 幕軍に従い京に攻め登る	大分県の歴史年表
1224	貞応3年	賀来惟綱		賀来荘	地頭職御下文	賀来荘史料28
1226/08	嘉禄2年	賀来惟綱鬼 丸	北条泰時	賀来荘	地頭の乱行を止める	桙原八幡宮文書31
1230/08	寛喜2年	賀来社	大介惟宗朝 臣	豊後国司庁	賀来社大神宝用途として 阿南郷を不輸の神領とする 平丸名を不輸神領とし賀 来社大神宝役を勤事せし む	桙原八幡宮文書32
1230/08	寛喜2年	賀来社	権右中弁藤 原朝臣	太宰府	阿南郷を一向不輸の地と する	桙原八幡宮文書33-1
1233/07	天福元年	阿南郷	一条前太政 大臣家政所 名主等	平丸名	阿南郷を一向不輸の地と する	桙原八幡宮文書33-2
1234/03	文歴元年	袖原宮	法橋上人幸 秀	阿南郷	御供田を寄進	桙原八幡宮文書34
1236/11	嘉禎2年	袖原宮	法橋上人幸 秀	御供田を寄進		桙原八幡宮文書38
1248/05	宝治2年	賀来小次郎 惟綱與左衛 門尉頼妙法 師法名妙念	北条重時	賀来荘	賀来荘地頭惟綱に對し薪 補地頭に準じ給田加徵を ある	桙原八幡宮文書41
1262/02	弘長二年	賀来地頭惟 綱	造酒正中原 朝臣	地頭の乱行に裁定		桙原八幡宮文書44
1271	文永8年	大友頼泰 (3代)		高國府	大友氏が下向	大分県の歴史
1272	文永9年	大友頼泰			東方奉行となる	大分県の歴史
1275	文永12年	大友頼泰			警告文	大分県の歴史
1277/01	正慶元年	小次郎惟綱 順阿			願蓮之亡父順阿として記 述有り	桙原八幡宮文書66, 67
1281	弘安4年	大友頼泰	蒙古軍	筑前博多香 椎宮前浜	第二次蒙古襲来	大分県の歴史
1283/07	弘安6年	賀来又次郎 入道念阿	駿河守平朝 臣	肥後国永吉 西村	肥後国永吉西村地頭拝領	鎌倉遺文14898、肥後平 川文書

1284/03	弘安7年	賀来惟永法 名願蓮	大宮司平経 妙	賀来地頭惟永の行動の申 状
1285/09	弘安8年	天友頼泰	北条幕府	豊後 豊後国田帖を注進
1285/09	弘安8年	賀来惟永願 蓮		賀来莊 賀来莊二百 町
1285/10	弘安8年	賀来惟永願 蓮	豊後国大田 文案	豊後國田帳 法名願蓮
1287/01	正慶元年	賀来惟永法 名願蓮	佛名経講贊	地頭御家人賀来五郎法師 鎌倉遺文15700
1287/01	正慶元年	賀来惟經	佛名経講贊	佛名経講贊
1287/01	正慶元年	賀来惟家	佛名経講贊	賀来願蓮の子惟經の記述 惟家記述
1289/03	正応2年	大宮司経妙	平経妙	惟家記述
1297	承応5年	鎌倉幕府		惟綱地頭職任命とそれま での経緯
1300/04	正安2年	賀来惟政	權大宮司	地頭惟政の横領について 記述
1305/02	嘉元3年	賀来越中守	柞原八幡宮	柞原八幡宮文書50
1305/02	嘉元3年	賀来長門守	柞原八幡宮	納米
1310/12	延慶3年 賀来小三郎 願誓	賀来社大宮 司	奉行所	平丸名地頭 納米
1322/08	元亨2年	賀来奮河	柞原八幡宮	請文
1324/01	元亨4年	地頭	柞原八幡宮	賀来氏ではない
1327/08	嘉歎2年	阿南莊地頭	柞原八幡宮	神人帳に名有り
1328/08	嘉歎3年 正慶元年(北 朝)	賀来地頭願 蓮	柞原八幡宮	地頭横領 地頭争論
1332	正慶元年(北 朝)	賀来小次郎 順阿		年中行事次第
1333	元弘3年	大友貞宗 (6代)	足利高氏 方	順阿の子が願蓮、願蓮の 子が惟永及び二郎惟經、 舍弟が六郎惟家の記述
1334	建武元年	足利高氏	鎌倉	柞原八幡宮文書66, 67
				大分県の歴史年表
				大分県史料36-24
				柞原八幡宮文書66, 67
				柞原八幡宮文書66, 67
				柞原八幡宮文書66, 67
				大分県の歴史
				柞原八幡宮文書55
				柞原八幡宮文書56
				柞原八幡宮文書57, 58
				柞原八幡宮文書
				柞原八幡宮文書66, 67
				大分県の歴史

			規矩高政を討つ	規矩高政を討	帆柱城	朝廷の命により討つ	大分県の歴史
1334	建武元年	大友貞載	討つ			守護代豊後高田、宇佐八幡関係	増補訂正大友史料5-1842
1335/09	建武2年	賀来五郎入道	大友貞載				
1335/11	建武2年	(惣領の名代)	天友貞載	朝廷軍に味方	朝廷軍に味方	足利高氏を討つ	大分県の歴史
1335/11	建武2年	大友貞載	足利高氏に味方	足利高氏に味方	箱根	官軍を討つ	大分県の歴史
1336/01	建武3年	大友貞載	味方内応	足利高氏に味方	伊豆	討ち死	大分県の歴史
1336/01	建武3年	足利尊氏	結城親光	方内応	京都	官軍に敗退九州にのがれる	大分県の歴史
1336/03	建武3年	足利尊氏	官軍	結城親光	京都	尊氏軍が大勝、大友軍を率いて東上	大分県の歴史
1336	建武3年	賀來弁阿闍梨	菊池武敏と戦う	菊池武敏と戦う	多々良浜		
1336	建武3年	賀來三郎	大友貞順等と九州官軍に加わり	大友貞順等と九州官軍に加わり	玖珠城	大友惣領軍と戦うも落城	大分県の歴史
1336	建武3年	賀來掃部助	三条真度、宇都宮大和守	三条真度、宇都宮大和守	宇治川	宇治川合戦の恩賞	大分県史料02-389築上郡
1336/06	建武3年	賀来辨阿闍梨入道	大神重能	賀来辨阿闍梨		玖珠一高国府の戦い軍中状	大分県史料13-72
1336/07	建武3年	賀来辨阿闍梨	賀来孫次郎	戸次朝重		玖珠の戦い軍中状	編年大友史料399
1336/09	建武3年	懷良親王				玖珠の戦い軍中状	編年大友史料399
1337/05	建武4年	賀来孫五郎				征西大將軍に任命	大分県の歴史
1337	建武4年	賀来成阿	沙弥	植田			
1338	歴応元年	足利尊氏					
1338	歴応元年	大友氏泰	足利尊氏(7代)	足利尊氏	大和、和泉	出陣	大分県の歴史
1339	歴応2年	大友氏泰	足利尊氏	足利尊氏	帰国	少弐、菊池軍と戦う	大分県の歴史

1339/07	暦応2年	賀来弥五郎 入道生阿	小田次郎	小田次郎	豊後国玖珠 郡
1340/01	暦応3年	賀来弥五郎 入道生阿	僧有快	小田次郎	豊後国玖珠 郡
1341/06	暦応4年	賀来弥五郎 入道生阿	一色範氏		豊後国玖珠 郡
1342	康永元年	懷良親王			軍功 薩摩
1342/06	康永元年	賀来地頭順 阿女子薬師女 女	沙弥、駿河 權守	賀来莊	薩摩に上陸 賀来地頭順阿女子薬師女 に支配を命ぜ 地頭職を宛て行う
1346	承和2年	大友貞範	足利尊氏		大友資料517 編年大友史料518
1346/05	承和2年	賀来治部丞 大神惟世	陣道、足利尊 氏下向の際の 誓約		地頭職の件 地頭職請文 編年大友史料519 大分県の歴史
1348	正平3年	懷良親王		菊池	角違一揆盟約書 編年大友史料748
1349	正平4年	足利直冬			南軍を指揮一色軍に対抗 大分県の歴史
1350	正平5年	足利直義			少弐頼尚に頼り軍を起す 大分県の歴史
1351/10	正平6年	足利尊氏			南朝に降る 大分県の歴史
1351/10	正平6年 (8代)	大友氏時			南朝に降る 大分県の歴史
1352	文和元年	足利尊氏			南朝に背く 大分県の歴史
1352	文和元年	大友氏時			南軍から離れる 大分県の歴史
1352	文和元年	足利直冬			北軍に敗れる南朝に降る 大分県の歴史
1353	文和2年	一色氏			少弐頼尚と戦い破れる 大分県の歴史
1353/02	文和2年	賀来惟光 大友刑部氏	法名光口 円成寺地輪	筑前針摺原	一色党として針摺原合戦 にて討ち死 増補編年大友史料7- 193、き北の文化財
1356/03	建武3年	時	菊池と戦う		黒木城 黒木城の戦い 豊筑乱記
1358	正平13年	懷良親王			豊後国府 豊後国府に進入 大分県の歴史
1358/02	正平13年	懷良親王			宇佐ノ幡宮 白鞘入剣を奉納 大分県の歴史
1358/04	正平13年	足利尊氏			京都 死亡 大分県の歴史
1358/12	延文3年	大友氏時			高崎城 高崎城に籠り南軍を撃退 大分県の歴史
1361	正平16年	斯波氏經			高崎城 入る 大分県の歴史

1371	応安4年	今川義範	高崎城	九州探題今川貞世の代理として高崎城に入る	大分県の歴史
1371	応安4年	大内義弘		幕府の命により九州探題を助ける	大分県の歴史
1374	応安7年	大内義弘	豊前国、長門	豊前、長門守護職に任じられる	大分県の歴史年表
1375	英和元年	大内義弘		幕府の命により九州探題を助ける	大分県の歴史
1380/12	康歷2年	地頭賀来掃部助	前備前守	給人注文	南北朝遺文5628
1383	弘和3年	大友親世 (10代)	豊後	所領の増加	大分県の歴史
1384/11	至徳元年	地頭賀来掃部助	前備前守	賀来地頭袖原八幡宮祭礼を勤事	桙原八幡宮文書94
1392	明徳3年	大友親世	袖原八幡宮	南北朝合一	大分県の歴史
1395	応永2年	今川貞世	京都	九州を去る	大分県の歴史
1398	応永5年	加来三郎 賀来五郎四郎	大友氏鑑	大友氏鑑が大友親世に乱を起こした際氏鑑につく	築上郡史297
1412/12	応永19年	大友親著	宇留津	宇留津	
1414/07	応永21年	賀来掃部入道	小津留	小津留代官職を停止	桙原八幡宮文書104
1416	応永23年	大友親著 (11代)	長弘	袖原宮神事について	桙原八幡宮文書106
1422/03	応永29年	賀来小次郎 (12代)	大友親世	家督を継ぎ豊後筑後守護職となる	大分県の歴史
1423	応永30年	大友持直 (12代)	大友親著	知行給田	桙原八幡宮文書108
1425	応永32年	大友孝親 (親著の長子)	三角島の乱	家督を継ぎ豊後筑後守護職となる	大分県の歴史
1432	永享4年	大内、大友	豊前国	持直に殺される	大分県の歴史年表

				幕府大友持直反乱により 親綱を大友当主とし豊後 守護職とする、家臣も両 派に分かれる。	
1432	永享4年	大友親綱 (13代)	豊後国	大友親綱姫嶽城に拠る	大分県の歴史
1435	永享7年	大友持直	海部郡姫岳	大友親綱姫嶽着到軍に名 あり	大分県史料31-305
1436/06	永享8年	賀来六郎五郎	姫嶽	大友親綱姫嶽着到軍に名 あり	大分県史料31-305
1436/06	永享8年	賀来次郎	姫嶽	大友親綱姫嶽着到軍に名 あり	大分県史料31-305
1436/08	永享8年	大内持世	海部郡姫岳	姫岳城を落す	大分県の歴史年表
1439	永享11年	大友親隆 (14代)		大友親綱、持直の弟新隆 に家督を譲る	大分県の歴史
1444	文安元年 (15代)	大友親繁		大友親繁、親綱の弟新繁 に家督を譲る、親繁の妻は新 護職安堵、親繁の妻は新 隆の長女	大分県の歴史
1467	応仁元年	山名持豊	細川勝元	京都	大分県の歴史
1469	文明1年	大友親繁	細川勝元	東軍として大内政弘と戦 う	大分県の歴史年表
1469	文明1年	賀来主税	細川勝元	東軍として大内政弘と戦 う	増補編年大友史料33
1476	文明8年 (16代)	大友政親		大友政親家督を継ぐ	大分県の歴史
1477	文明9年	大友政親		豊後守護職を安堵	大分県の歴史
1484	文明16年	大友義右 (17代)		大友義右家督を継ぐ	大分県の歴史
1489	延徳元年	治綱次男神 九郎	大友勝依 (政親の弟)	大友勝依を介錯	増補編年大友史料33
1490	延徳2年	賀来采女佐	大内氏関係 か	立て札について指示を受 ける	永弘文書1207
1492	明応2年	衛門尉治綱	大友親治	1492-1495に賀来氏大宮 司となる	増補編年大友史料13-357

1496/5	明応5年	大友義右			大友義右死亡、政親が毒殺か、 殺か、	大分県の歴史
1496	明応5年	大友政親		舟木地蔵院	政親生害、大内氏が関与	大分県史料04-1308 永弘文書1308 増補改訂編年 大友史料13-35
1496	明応5年	賀来彈正忠	大友政親	舟木地蔵院	殉死	肥後文書
1496	明応5年	賀来五郎左衛門治綱	大友親治		賀来社大宮司職	増補編年大友史料13-357
1497	明応6年	大友親治 (18代)		豊後国	大友氏を継ぐ	大分県の歴史
1497	明応6年	大友親治			豊前守護職を入手	大分県の歴史
1501/02	明応10年	賀来藤兵衛尉	大内義興	佐田次郎	本庄城にて矢疵	宇都宮文書
1501	文亀元年	大友義長 (19代)		豊後国	大友義長大友氏を継ぎ豊後守護職安堵、筑後、豊前所領安堵	大分県の歴史
1501	文亀元年	賀来惟秀		佐田	豊後賀来より来る	佐田郷土史
1501	文亀元年	賀来神兵衛尉	大内方とな	佐田	大友氏の妙見城を先登	宇都宮佐田系図
1505/07	永正2年	賀来神兵衛尉	佐田次郎	佐田	感状	佐田文書113p218
1507/03	永正4年	賀来五郎左衛門治綱	大友親治	袖原社	親治書状に大宮司の沙汰とする	桙原八幡宮文書181
1508/10	永正5年	賀来五郎左衛門治綱	大友義長	宮師御坊	社頭祈念の札	桙原八幡宮文書155
1509	永正6年	賀来大藏少輔惟秀	善右衛門 神左衛門尉	佐田莊	境界論議大藏代官として立ち会う	速見郡志p634
1509	永正6年	大内義興		豊前国	豊前守護職となる	大分県の歴史
1511/06	永正8年	賀来備中守	大友親照		大友親照謀反介錯する	増補編年大友史料33
1512/06	永正9年	賀来大膳允	大友親治		知行預け状	大友文書録1-665
1512/11	永正9年	賀来左京亮	大友義長		社当留守番申しつけ	桙原八幡宮文書155

1512/12	永正9年	賀来大蔵准秀	古川三郎左衛門	古川	古川荘四方指案 条規（治国の方針）を定める	速見郡志p635
1515	永正12年	大友義長		豊後	大友義長死亡、義鑑大友氏を継ぐ	大分県の歴史
1518	永正15年	大友義鑑 (20代)			親父戦死により筑後国内四丁を預ける	大分県史料9-499
1520/09	永正17年	賀来右衛門 大輔	大友義鑑	筑後	大宮司隆重覚え書き	桙原八幡宮文書155
1521/12	大永元年	賀来加賀守 進、将監	隆重		大宮司隆重覚え書き	桙原八幡宮文書161
1521/12	大永元年	賀来大蔵少輔惟秀	善右衛門 尉、神左衛門尉	古川村	境界争論	山香郷土史p165
1524/02	大永4年	賀来大蔵少輔惟秀	善右衛門 尉、神左衛門尉	古川村	境界争論	山香郷土史
1524/04	大永4年	賀来八郎大 神鑑綱		古川村	加冠	長州賀来文書
1524/05	大永4年	賀来藤兵衛 賀来左衛門 大夫	古河景助	古川村	古河景助案	宇都宮文書84
1529/09	享禄2年	賀来右衛門 大夫	田北親員		書状	増補編年大友史料16-155
1530	享禄3年	賀来右衛門 大夫	大友義鑑	賀来	賀来で騒動起る賀来右衛門大夫死亡	大分県史料32-772
1530?	享禄3年	賀来民部少輔	宮師	袖原社	宮師由来（賀来地頭民部少輔とあり）	桙原八幡宮文書219
1531/01	享禄4年	大宮司（御宿所）	各坊	袖原社	助運等運署状	桙原八幡宮文書165
1531/03	享禄4年	正大宮司	津久見常清 (社奉行)	袖原社	進物、武具などの管理を命ず	桙原八幡宮文書163
1531/05	享禄4年	宮師御坊	賀来左京亮	袖原社	袖原社旧記返還	桙原八幡宮文書166
1531/05	享禄4年	賀来地頭	賀来地頭、賀来五郎左衛門、香童子、賀来新四郎を非難	伊賀守田口	桙原八幡宮文書164	

1531/09	享禄4年	田尻中務丞 賀来右衛門	大友義鑑 大友義鑑	東植田村田 尻	氏姓の争いの領地を返還 安岐郷、武藏郷を還付	増補編年大友史料15-397 増補編年大友史料15-401
1531/10	享禄4年	大夫 賀来神九郎 (治綱次男)	大友義鑑		阿南莊内一部を預ける通 知	増補編年大幡宮文書補遺229
1531/11	享禄4年	賀来神九郎	大友義鑑	丹後守他	宝珠山戦にて被創	増補編年大友史料15-405
1531/12	享禄4年	賀来神九郎	大友義鑑			増補編年大友史料11-p21
1532/10	天文元年	賀来神九郎 賀来右衛門 民部 亮次 次郎三 郎、藤七、 又三郎	大友義鑑 佐田	豊前國妙見岳攻め感状	増補編年大友史料16-94	
1532/11	天文元年	賀来善三郎 賀来神九郎 大友義鑑	大友義鑑	感状	増補編年大友史料16-p63	
1533/02	天文2年	賀来神九郎 大友義鑑	大友義鑑	感状	増補編年大友史料16-140	
1533/03	天文2年	賀来神九郎 大友義鑑	大友義鑑	感状	増補編年大友史料16-p63	
1533/04	天文2年	賀来新左衛 門尉	中山正資	駆走御札	増補編年大友史料16-143	
1533/04	天文2年	賀来新左衛 門尉	沼間網中連 署	豊前	軍忠状	増補編年大友史料16-144
1533/06	天文2年	賀来新左衛 門尉	豊前	軍忠状	増補編年大友史料16-144	
1534/03	天文3年	賀来神九郎 賀来藤三、 右京進	大友義鑑	感状	大友家文書銀2-808	
1534/03	天文3年	賀来大膳允 賀来采女允 興国	佐田因幡守	佐田	佐田隆居討死手負注文 佐田文書172	
1534/03	天文3年	賀来采女允 興重	佐田因幡守	佐田	礼状	佐田文書
1534/04	天文3年	賀来新左衛 門尉	大友義鑑 大内義隆	速見郡勢 場ヶ原	大内氏と戦う	佐田文書142
1534/06	天文3年	賀来新左衛 門尉	粟屋次郎丞 重吉	豊前	忠節感謝状	増補編年大友史料16-315
1534/06	天文3年	賀来新左衛 門尉	仁部刑部丞 隆綱	豊前	忠節感謝状	増補編年大友史料16-316

1534/06	天文3年	賀来次郎	長就他	佐田	父之死を悼む	増補編年大友史料16-354
1534/06	天文3年	賀来次郎	大友義鑑	佐田	軍中状肥後木山城攻めか	増補編年大友史料16-p168
1534/07	天文3年	賀来新左衛門尉	杉興重	豊前	感状	増補編年大友史料16-365
1534/09	天文3年	賀来五郎太郎	大友義鑑	豊前	跡地知行を小原彈正に預けられる	増補編年大友史料16-385
1534/10	天文3年	賀来右京進、亮次郎	中務大丞	佐田	感状	佐田文書
1534/10	天文3年	賀来藤三		佐田	佐田隆居討死手負注文	
1535/04	天文4年	源鑑綱		賀来社	土佐にて豊後帰国際は、臼杵庄名字の地を寄進すると約束	大分県史料09-166
1536/7	天文5年	賀来民部丞	大友義鑑	賀来	筑後国内知行預け状	増補編年大友史料17-13
1536/7	天文5年	賀来民部丞	大友重臣連判		筑後国内知行預け状通知	大友文書録888
1536/7	天文5年	賀来社正大宮司紀伊守(惟重?)	大友義鑑	賀来社	札状	増補編年大友史料18-479
1536/09	天文5年	賀来右衛門大輔	賀来民部丞が父か		親父戦死筑後を預けられる	賀来荘史料78
1538/01	天文7年	賀来左京亮		賀来社	袖原宮造替覚書	袖原ノ幡宮文書169
1538/03	天文7年	賀来左京亮 鑑重		賀来社	袖原宮願文	増補編年大友史料17-137
1538/03	天文7年	賀来左京亮 鑑重			大追物手組事	増補編年大友史料17-235
1539/12	天文8年	賀来社大宮司平鑑綱		賀来社	有識故実を伝授	増補編年大友史料17-287
1540/01	天文9年	賀来景縁神右衛門尉	永松若狭守	宇佐八幡	宇佐米送り状	大分県史料07-127
1540/06	天文9年	賀来社大宮司鑑綱	永松若狭守藤広	宇佐八幡	肥後國の預け状	長州賀来文書
1540/07	天文9年	賀来中務丞	佐田朝景	佐田	宇佐八幡検査	増補編年大友史料17-287

		賀来社惣地 頭	大友義鑑	賀来社 賀来社	末社大破について出府せ しむ	大分県史料9-294
1540/11	天文9年	賀来左京亮	大友義鑑	賀来社 賀来社	賀来社旧記返還専要	増補編年大友史料18-474
1541/05	天文10年	賀来紀伊守 (惟重)	大友義鑑	唐人成敗感状	増補編年大友史料18-531	
1541/12	天文10年	賀来八郎 (鑑綱)	大友義鑑	立花城属案中祝儀脇巻の 札承	増補編年大友史料18-479	
1542/06	天文11年	正大宮司	大友義鑑	賀来社 山野雉法度	大分県史料25-179	
1542/08	天文11年	大宮司	大友義鑑	大友三階崩騒動	天分県史料34-2437	
1550/02	天文19年	賀来八郎 (鑑綱)	宮師	次男八房丸と称す	袖原八幡宮文書219	
1550	天文19年	賀来八郎 (鑑綱)	宮師	肥後での知行預け状	増補編年大友史料19-181	
1551/06	天文20年	大友氏肥後 国檢地衆	大友義鎮	御判遵守	賀来莊史料78	
1550/06	天文20年	加来丹波 守、加来伊 豆守、加来 治部少輔、 加来弾正忠	小原惟元	肥後	熊本市史中世 p 5 4 5	
1551/12	天文20年	賀来民部少 輔	大友義鎮	肥後領地打渡状	増補編年大友史料19-239	
1552/03	天文21年	賀来紀伊守 (惟重)	大友義鎮	宮師跡につき相談	増補編年大友史料4-244	
1552/03	天文21年	八房丸 賀来中務少 輔	大友義鎮 田尻掃部介他 宛	袖原宮師跡を承認	増補編年大友史料4-243	
1552/05	天文21年	大友義鎮	肥後差し遣わし	増補編年大友史料19-258		
1552/08	天文21年	賀来新九郎 大宮司	大友義鎮 志賀親守	大友義鎮授名書鎮秀 遷宮の際の礼	増補編年大友史料19-291	
1552/09	天文21年	八房	長重	袖原宮師交代につき領内 成敗申し入れ	増補編年大友史料19-287	

1552/09	天文21年	宮師	鑑満、鑑泰	成敗申し入れ	増補編年大友史料19-288
1552	天文21年	佐田氏		佐田氏の出自の記録	増補編年大友史料19-159
1555/02	天文24年	賀来周防守	大友義鎮	狩場待奉行に任命	増補編年大友史料20-7
1556/05	弘治2年	賀来紀伊守	白杵鑑続	佐田弾正忠宛賀来紀伊守等成敗申し入れ	増補編年大友史料20-96
1556/05	弘治2年	賀来紀伊守	佐田弾正忠	佐田弾正忠宛賀来紀伊守等成敗申し入れ	増補編年大友史料20-96
1556	弘治2年	加来孫兵衛	佐田	紀伊守跡を没収、田北忠次郎に預ける	増補編年大友史料2-1417
1556	弘治2年	惟康	大友義鎮	大友の侵攻により降伏	築上郡史318
1556	弘治2年	加来壹岐守	大友義鎮	大友氏大内氏と争い宇佐下毛両郡に侵攻	築上郡史316
1556/08	弘治2年	賀来太郎	大友義鎮	賀来太郎跡を不明人に寄付	大分県史料29-232
1556/11	弘治2年	賀来紀伊守	田北忠次郎	賀来紀伊守跡地を田北忠次郎に預ける	増補編年大友史料20-154
1556	弘治2年	賀来主計允	大友義鎮	宇佐郡三十六人衆着到	増補編年大友史料20-106
1557/03	弘治3年	賀来主計允	鑑續	主計允を推薦	宇都宮文書45
1557/06	弘治3年	賀来中務承	佐田弾正忠宛	感状	田北文書13
1557/07	弘治3年	賀来九郎	佐田	在陣見舞	増補編年大友史料20-247
1558/02	永禄元年	賀来周防守	大友義鎮	感状	田北文書13
1559	永禄2年	大友義鎮 (21代)	将軍義輝	筑前豊前	大分県の歴史年表
		賀来市助、 中務承、神 三郎、備後 守、善三郎			
1559/08	永禄2年	佐田隆居	佐田	隆居分捕注文	増補編年大友史料20-438
1559/08	永禄2年	賀来市助	佐田隆居	隆居手負い注文	増補編年大友史料20-438
1559/10	永禄2年	賀来彦三 郎、助六、 大蔵丞	佐田	隆居手負い注文	増補編年大友史料20-474

1560/5	永禄3年	織田信長、今川義元	桶狭間	桶狭間の戦い
1560/01	永禄3年	大宮司賀来氏	御老中	賀来社 賀来社地頭宛
1560/07	永禄3年	賀来九郎	大友義鎮	在陣見舞い
1561	永禄4年	大友義鎮	毛利氏	毛利氏
1561/03	永禄4年	賀来和泉守	毛利氏	佐田彈正忠宛 豊前
1561	永禄4年	賀来鎮綱 (宮千代)	大友義鎮	叛義鎮とある
1561	永禄4年	賀来松寿	佐田隆居	父掃部頭鑑綱跡賀来社大 宮司職宮千代に安堵 知行宛行
1562	永禄5年	大友義鎮		白杵丹生城 築城
1563	永禄6年	輔惟定		宗麟と号す 來たり城主となる。
1565/08	永禄8年	賀来采女 佐、弥右衛門尉		葛城神社 隆居手負い注文
1569/08	永禄12年	賀来宮内丞	佐田隆居	佐田 軍功
1569/12	永禄12年	賀来三郎右衛門尉	大友宗麟	田原郡 規矩郡
1569/12	永禄12年	加来宮内、 三郎右衛門、 泉	田原親宏	手負い 軍功
1570	永禄13年	賀来民部少 輔	宮師豪栄(八 房)	増補編年大友史料62 賀来社 宮師由来 柚原八幡宮文書219
1570	永禄13年	賀来四郎	大友宗麟	手負い 増補編年大友史料23-65
1571/05	元龜2年	賀来社大宮 司、宮師御 房	宮師豪栄	賀来社 賀来社 雜事注文 柚原八幡宮文書190
1571/09	元龜2年	大友氏老臣	連署	大神宝会について 増補編年大友史料36-164
1572/10	元龜3年	宮師豪栄	賀来社	賀来社 雜事注文 柚原八幡宮文書190
1572/03	元龜3年	大宮司、宮 師御坊	老臣連署	大神宝会について 増補編年大友史料36-164

					年貢米請取り状	増補編年大友史料23-232
1573/12	元亀4年	賀来孫五郎	鳥羽紹佐等			
1575/03	天正3年	宮師豪栄	賀来房洲入道	賀来社	着座次第	増補編年大友史料23-316
		賀来左衛門 尉、兵部 丞、和泉 守、九郎、 与一、藤次 郎、又次郎				
1575	天正3年	山上衆	飽田郡内	知行目録	熊本県中世史料2p18p23	
1578/03	天正6年	賀来社 大友義統	賀来社 大友義統	立願大刀奉納	増補編年大友史料24-14	
1578/11	天正6年	(22代) 賀来太郎	土持氏 土持氏	日向 日向	日州合戦、耳川の戦い	大分県史料33解題
1578/04	天正6年	賀来大藏丞	佐田鎮綱		佐田鎮綱分捕り注文	佐田文書262
1578/06	天正6年	惟秀	田原親賢		田原書状	佐田文書262
1579/01	天正7年	大友義統		豊後臼杵	宗麟から家督を譲られる	両豊記
1579	天正7年	惟康	加来孫兵衛			
1579	天正7年	宇都宮鎮房	大友氏 大友氏	宇留津城 城井城	大友氏から離反 大友氏から離反	両豊記
		賀来左衛門 大夫、宮内 少輔				
1580/03	天正8年	佐田彈正忠	大友宗麟	田北紹鉄	結束攬乱の書状	増補編年大友史料別巻
1580/04	天正8年	賀来右衛門 大夫	大友宗麟		宇佐郡中40町地与える	佐田文書北九州戦国史
1580/03	天正8年				田北紹鉄の自害を命ずる	佐田文書北九州戦国史
1580/04	天正8年	賀来社大宮 司	大友義統	賀来社	賀来社造営指示	増補編年大友史料25-79
1580/06	天正8年	賀来次郎左 衛門尉、采 女佐	佐田彈正忠	宇佐郡植田 表	着到	佐田文書

		賀来与一、清 半次郎、清 左衛門尉、甚左 主税、甚左 衛明尉				
1580	天正8年	賀来兵右衛 門尉鎮光、 子松寿丸 (三七統 久)		下毛郡多布 原村	城攻め	増補編年大友史料25-37
1582/02	天正10年	加来安芸守 統直	大友義統		賀来兵右衛門尉鎮光の所 領を、子松寿丸(三七) に相続させる	賀来文書1-3東大史料編 纂所所蔵
1582	天正10年	加来安芸守 統直	野中重兼	野中重兼	島津氏と戦い勝利する	兩豊記
1582	天正10年	賀来土佐守 (豊後)、 賀来越中守 (豊前)	大友義統	大畠城	感状を受ける	兩豊記
1582	天正10年	大友 織田信長	明智光秀	本能寺	大友家臣城主姓氏録にあ り 本能寺の変	増補編年大友史料15-370
1582/06	天正10年	賀来中務少 輔	明智光秀	本能寺	安心院神楽要害兵糧 祭祀御礼	佐田文書297
1583/01	天正11年	大宮司	大友義統	佐田彈正忠 賀来社	佐田文書北九州戦国史 大分県史料25-187	佐田文書北九州戦国史 大分県史料25-186
1583/02	天正11年	大宮司	大友義統	賀来社	社殿造嘗要心	佐田文書北九州戦国史
1583/03	天正11年					
1583/06	天正11年	佐田弾正忠	大友府蘭	安心院千代松	神樂岳落城	佐田文書北九州戦国史 1063
1583/07	天正11年	佐田弾正忠	大友府蘭	安心院興生	神樂岳落城	佐田文書北九州戦国史 1064
1583/11	天正11年	大宮司	大友義統	賀来社	祭祀御礼	眞史料25-178
1584/02	天正12年	大宮司	大友義統	賀来社	祭祀御礼	袖原川幡宮文書205
1584/10	天正12年	賀来左近将 監か 賀来兵部少 輔	大友義統		文書	袖原川幡宮文書206
1585/10	天正13年	大友義統			在陣見舞い	増補編年大友史料24-114
1585	天正13年	豊臣秀吉		大阪城	秀吉開白になる	

1585/12	天正13年	豊臣秀吉	九州諸大名	九州諸大名	大阪城	秀吉に従うべしとの使者派遣	兩豊記
1586/2	天正14年	豊臣秀吉	大友宗麟	大友宗麟	九州	大友宗麟上京しての願いにより九州島津征伐	兩豊記
1586/10	天正14年	島津義久	大友義統	大友義統	豊後府中城	島津府中城占領、義統竜王城に移る	兩豊記
1586/11	天正14年	賀来鎮綱	(大宮司)	大友義統	高崎城	高崎城整備の感状	増補編年大友史料27-322
1586/11	天正14年	加采孫兵衛 久盛	秀吉	秀吉	宇留津城(椎田町) 落城	11月7日黒田軍により	城井
1586/12	天正14年	賀来主膳	(大宮司)	大友義統	島津を武略により惱ます	島津攻め	増補編年大友史料27-359
1586/12	天正14年	賀来主膳	大友義統	島津義久	豊後	島津豊後より引き退く	豊後全史
1587/01	天正15年	秀吉	秀吉	松寿丸	父鎮光の跡領承	父鎮光の跡領承	兩豊記
1587/02	天正15年	大友義統	大友義統	豊臣秀吉	豊前馬岳城	入城	賀來文書1-3
1587/03	天正15年	豊臣秀吉	秀吉	天正15年	降伏	入城	兩豊記
1587/05	天正15年	島津義久	秀吉	京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐の6郡を封す.	京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐の6郡を封す.	京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐の6郡を封す.	城井
1587/06	天正15年	黒田孝高	秀吉	植田莊	賀来跡坪付宛先不明	植田莊	袖原八幡宮文書209
1587/08	天正15年	賀来刑部丞	大友義統	大友義統	父鎮光の跡領承	父鎮光の跡領承	賀來文書1-4
1587/09	天正15年	松寿丸	大友義統	宇都宮鎮房	一揆拳兵	一揆拳兵	一揆拳兵
1588/01	天正16年	宇都宮鎮房	黒田官兵衛	城井城	大畠城(中津市加来)	大畠城(中津市加来)	大畠城(中津市加来)
1588/01	天正16年	加来統直		大畠城(加来城)	宇都宮鎮房拳兵の際拳兵	宇都宮鎮房拳兵の際拳兵	城井
1588/03	天正16年	加来統直		來城)主	中津市加来、黒田勢によつて討ち取られる.	中津市加来、黒田勢によつて討ち取られる.	黒田家譜
1588/06	天正16年	宇都宮鎮房		城井城	領地安堵といつわられ開城	領地安堵といつわられ開城	兩豊記
1588/11	天正16年	宇都宮鎮房		城井城	城井城を攻め入城	城井城を攻め入城	兩豊記
1588/11	天正16年	黒田長政		城井城	城井城を攻め大敗	城井城を攻め大敗	増補編年大友史料28-
1589/04	天正17年	賀来三七統 久	大友吉統		加冠状(松寿丸)	加冠状(松寿丸)	115, 116

1589/04	天正17年	宇都宮鎮房 孝高 中津市二の 丁城井神社 内	黒田長政、 黒田長政、孝 高 中津市(中津 市)	宇都宮鎮房中津城にて謀 殺さる。	宇都宮鎮房中津城にて謀 殺さる。 城井
1589/04	天正17年	加来左内元 郡	宇都宮鎮房 中津市二の丁 城井神社内	宇都宮鎮房とともに黒田 長政に討たれる。30才	宇都宮鎮房とともに黒田 長政に討たれる。30才 城井
1589/04	天正17年	尉准元 加来刑部 (准定?)	宇都宮鎮房 宇都宮鎮房 加来左内の父	宇都宮遺臣 宇都宮遺臣	宇都宮遺臣 築上郡志
1589/04	天正17年	賀来統久 大友吉統		吉統授統字家臣賀来三七、 旧名統久、有書統久幼名松 寿丸、後号大神神九郎	吉統授統字家臣賀来三七、 旧名統久、有書統久幼名松 寿丸、後号大神神九郎 増補訂正編年大友史料 28-115,116
1589/07	天正17年	賀来兵部少 輔	大友吉統	工事感状	増補編年大友史料28-147
1590	天正18年	黒田孝高 賀来刑部大 輔		豊前	豊前を平定 大分県の歴史年表
1591/04	天正19年	豊臣秀吉 賀来將監 輔		参宮帳	大分県史料26-369
1592	文禄元年	賀来中務少 輔(寒田) 賀来中務少 輔	大友義統	朝鮮	朝鮮出兵 大友氏家臣名簿 増補編年大友史料28-387
1592	文禄元年	賀来中務少 輔	大友義統	朝鮮	高麗陣義統公供奉 大分県史料33-2247
1592	文禄元年	賀来兵部少 輔		朝鮮	朝鮮 戦死 増補編年大友史料28-384
1593/05	文禄2年	大友吉統 (義統改 め)		着到衆	着到衆 増補編年大友史料28-383
1593	文禄2年	小西、黒田 小西、黒田	朝鮮	小西軍が明軍の平壤攻撃 を受けるも援軍せず。	小西軍が明軍の平壤攻撃 を受けるも援軍せず。 大分県史料34-解題
1593	文禄2年	大友吉統 賀来左京入 道、次郎	秀吉 秀吉	豊後を召上げられ毛利に お預けとなり、山口で幽 閉される。	豊後を召上げられ毛利に お預けとなり、山口で幽 閉される。 大分県史料34-解題
1594/06	文禄3年			山口	山口 増補編年大友史料28-446
				着到衆	

		大宮司、賀来中務少輔、兵部少輔、市右衛門尉		
1598/10	慶長3年	豊臣秀吉	山口	着到衆 秀吉死上
1598	慶長3年	大友吉統		幽閉を解かれ江戸へ移る
1599	慶長4年	大友義統		大分県史料34-解題
1600/06	慶長5年	賀来三七	大友義統	会津表參陣を賀す。 上杉征伐へ出発
1600	慶長5年	徳川家康	石田三成	西軍に与して毛利の軍艦 にて豈後に向かう
1600	慶長5年	徳川家康	石田三成	黒田長政 黒田長政
1600	慶長5年	大友吉統	毛利輝元	毛利輝元
1600	慶長5年	大友吉統		弘徳幸ら戦死
1600	慶長5年	黒田長政		筑前52萬石に封ぜられる
1600	慶長5年	宮師豪栄 (賀来八房)		城井
1617/01	元和3年	賀来三七の子	賀来社	袖原八幡宮文書215
1620	元和6年			賀来兵部、三七の事項、 賀来家の歴史を記述
1620	元和6年			大分県史料34-2361
1620	元和6年	宮師豪政	賀来社	宮師由来、賀来地頭民部 少輔、八房丸、豪栄を記述
1625	寛永2年	賀来氏 治綱の次男 神九郎	賀来氏家伝、治綱、神九郎、 民部少輔、式部大輔、賀来准時などを記述	袖原八幡宮文書219
1625	寛永2年	佐田勘左衛門 門友房		肥後古記叢5-6
1638	寛永15年	賀来佐左衛門 尉	山藏賀来氏來歴あり	佐田系図
1640	寛永17年?	明尉	賀来氏來歴覚え	大友家文書録4-2361-1
1716	正徳5年	大神尚山	豊後岡田帳孝策	鎌倉遺文
1744	延享元年	佐田氏	佐田氏系図	増補編年大友史料33

注) 賀来地頭
力

注) 事件か